

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102576		
法人名	有限会社ハピネス		
事業所名	グループホームひまわり(2ユニット共通)		
所在地	浜松市東区中野町4258		
自己評価作成日	令和5年 12月 4日	評価結果市町村受理日	令和6年 1月 25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和5年 12月 22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、歯科衛生士を中心に毎食の口腔ケア昼食前・おやつ前に口腔体操を実践している。専門的な口腔ケアと口腔体操の習慣化により、入居者様の嚥下機能の維持及び誤嚥性肺炎の予防に繋がっている、音楽にのせて吹き戻しを吹くことで、口の周りの筋肉が強化され、機能維持ができる体操も取り入れている。入居者様にとって「食べること」が一番の楽しみであり、口腔ケアについても歯科衛生士からアドバイスや助言を受け、職員全員で口の中の衛生についても支援している。ここ数年、誤嚥性肺炎にかかる入居者様もほぼゼロに近く、効果がみられると感じている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所周辺はとてものどかで、緑が多く青い空が一面に広がっている。事業所の駐車場入口から建物周辺に至るまでの植え込みには、草花が整然と並び手入れが行き届いている。まるで大きな一軒家を思わせる事業所である。新任職員への教育方針は、業務に必要な知識やスキルを実践から学ぶのではなく、段階的に整備されたカリキュラムで「基本」を学び、現場で「応用力」を高めていくスタイルである。職員全員が利用者と家族に対して、同じ支援をされるためには重要な過程である。さらには、職員が職員を敬いお互いを認め合う姿勢は、後輩の育成にプラスとなり、利用者を敬う支援として反映されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、事務所、相談室に事業所の理念を掲げていて、常に目の届くところにあり、入社時、役職研修時でも再確認をし、「個を尊重し生きがいのある安心した暮らし」を常に念頭に入れて支援できるように努めている。	事業所では、個々の尊厳、穏やかで心静かな生活、住みやすい住居などを目指し支援されている。職員が利用者に添える手や声掛けは優しく、訪問当日の職員の配慮や所作には「利用者への尊厳」が窺えた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの流行により中止になったが、8月には地域の夏祭りを駐車場にて企画・招いている。ご近所の畑の野菜や果物を頂く機会も多々ある	自治会と市の計らいにより、事業所西側の水道管の清掃が行われ、近隣の田んぼの水捌けが改善されている。地域の中での普段からの良好な関係性が、こうした事業所への配慮に繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は企画したが、コロナ中止しているが、入居者が地域の夏祭りに積極的に関わりゲームや盆踊り、スコープ三味線に地域との交流することで理解を得ている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域推進会議が通常開催となり、事業所の活動報告、ヒヤリハット・事故報告、職員の処遇改善研修報告をし、参加者から意見を頂き、ご質問には答えて、さらなるサービス向上に努めている。	会議が書面開催の場合であっても、通常開催と遜色ない充実した内容となっている。行政職員や地域関係者、また、家族や近隣住民からの感想や意見を真摯に受け止め、迅速に対応されている。	公平性の観点により、利用者の家族には同様に情報提供することが望ましい。家族全員への会議録の配布により、周知共有が図られることが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の方の手続きを行ったり、ケアプランを持参し、日頃の様子を含めて説明を行い、行政からの連絡もあり、協力関係を築いている、又困難事例があれば相談・報告に行き、顔の見える関係作りをしている	地域と良好な関係性を構築されていることで、行政との関連の幅が広がり、事業所の運営や支援が円滑に行えている。市担当課の指示により、運営推進会議の議事録はFAXで提出されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正委員会を設置し、3ヶ月に1度会議を行い、議事録にまとめて、職員周知をし、年間2回は資料提供しレポートにまとめたり、テスト形式を実施し、身体拘束についての知識を高めている。	委員会で「身体拘束ゼロ対策、行動制限防止に係る規定」を振り返り、「身体拘束の指針」については担当職員が資料の準備から行い研修を実施している。研修の準備は自己研鑽に繋がり、より理解を深める機会となっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、担当者が虐待チェックリストでチェックを行い気になる点は周知している。職員に年間2回は研修を行い、チェックリストで職員も何が虐待にあたるか理解をし、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度を利用されている入居者様がいらっしゃいますので、後見人様との関係性を深め、心配なく生活できるように支援している。年1回の研修を行って学ぶ機会をもっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書は事前に持ち帰って頂きしっかり見て頂いた上で契約時には、契約書の内容を丁寧に説明、不安や疑問点の有無などの確認の上、契約書にサインを頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のたよりで身体状況の報告など写真を多くとり入れて御家族様等に安心感を与えている。状態変化、認知症の進行時には、ケアマネを中心に報告をさせて頂き、御家族様等からも気軽に日常の様子などを聞いて頂けるように信頼関係を築いてメール等も繋いでいる	運営推進会議の議事録には、行事に参加した利用者の感想や食事への思いなどが載せられている。家族からは、「食事の献立があると嬉しい」などの声がある。必要なことは、なるべく取り入れるように努めている。	意見箱は、「私たちには、家族の思いや要望を聞く姿勢があります」など、事業所の受け入れる姿勢を伝えるためのツールとして活用されたい。見える場所に設置することが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	役員・管理者・指導員が現場に入り職員とコミュニケーションを多くとり、必要に応じて職員の意見などを聴く機会を設けて、個々の悩みでも気軽に話せる信頼関係を築いている	事業所職員は全員が女性で、話しやすい関係性で働きやすい職場である。年3回の面談では、指導員が総体的に話を聞き相談に乗る事もある。日常では、管理職員が全体を把握しながら、指導を交えてコミュニケーションを図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スキルアップ手当など、資格取得を目指している、職員は、しっかりと評価し毎月手当てが支給されている、得意分野を改善し、業務を振り分けやりがいにつなげている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ渦になり社内研修を毎月行っている。資料を読んだレポート提出方式となっているが、一人一人が自習学習できるようにトレーニングできている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業者との直接的な行き来は少ないも、同グループのスタッフと連絡をとりあい、情報提供などが出来ている。専門職は、外部研修に積極的に出向いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居受入れ前に、ご本人様の生活把握を行い、予測し、困っている事を軽減できるようにケアプランに反映し、要望・希望を尊重し、統一したケアを行う事で、信頼関係を構築している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から御家族様等が困っている事が無いかなど連絡をとり、担当ケアマネと情報交換を密にとり、要望などを聞き、ケアプラン内容に記載している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・御家族様などが、一番不安に感じている事やこだわっていること等を聞き入れ、情報収集し、優先順位をしっかりと見極めてケアプランに取り入れ、統一した支援をさせて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と洗濯たみ・干し・食器洗い・拭き・レクリエーションなどを一緒に行うことで、共に生活をさせて頂いて支え合っている関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事前に連絡を頂いて、玄関先で面会をして頂いて入居者様と御家族様と話せる機会を設けたり、電話やオンライン面会など、絆を継続できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との面会もキーパーソンの方に確認・了解を得た上で、関係性を途絶えないよう支援している。現在は無いが美容院へ継続利用したり、宗教新聞を取り続けていた人もいた	制限が解消され、面会室での対面で家族と1時間ほど話されている。遠方の家族とはビデオ電話を活用し、手紙が届く利用者もいる。自宅への外泊や家族との外出などが再開され、必要なサポートを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の間関係が円滑になるように職員が見守り、関わり合い、支えあえるように支援している。テーブル席の配慮もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了後でも必要に応じて、相談や支援を行っている、その結果、家族や親族の入居もある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションを通して、要望等を読み取り、毎日15分前後のカンファレンスを通じて情報共有をし、御本人様の要望に応えられるように努めている。	問いかけで発語を促したり、様子から本人の思いを把握したりしている。食事や買い物の要望を言葉にする人がいれば、キッチンに近寄ることで気持ちを表現する人もいる。情報はサービス内容実施記録に集約され、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様1人ひとりの馴染みの物(タンス)等に触れた生活が出来るように写真(御家族様)を飾るなどの対応をしている。また御家族様等に協力して頂き、詳しい生活歴を聞き取るなどの対応や入居前のケアマネ様に様子を聞き取っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスを1日1回行い、意見を出し合い、心身状態等の把握に努め、状況に応じて見直し、再検討、試し期間等を設けて入居者様の生活が、よりよい生活にできるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日行っているサービスが実施出来ているか項目でチェックを行い、支援出来ているか確認を行っている。また他職種(医師、看護師、歯科衛生士など)と話し合いを行い、現状把握に努めている。	職員全員で利用者一人ひとりに寄り添い、日常的にモニタリングが実施されている。毎日のカンファレンスで情報共有を行い、意見交換されている。家族には、説明を経て計画内容の同意を得ており、見直しも適切に行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスを通じて、職員の意見を収集して、サービス内容実施記録チェックの結果、3ヶ月に1回、アセスメントグラフのデータを分析して、ケアノートを活用して職員間で情報共有してケアプランの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	不穏・不安になった入居者様へも時間を作り、傾聴したり、フロア職員以外のケアマネ等が対応をしたり、職員を入れ替えて対応することで、安心して頂けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染対策で、外からの受け入れが難しいのが現状だが、周辺にある神社やコスモス畑などに散歩へ出かけて近所の方などとコミュニケーションをとっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	365日24時間対応出来る協力医療機関と連携を図り、緊急時(昼夜問わず)にも対応して頂いて。月2回の往診、御家族様の要望などがあれば、専門科(精神科、フットケア)に診て頂き、適切な治療を受けられるように支援している。	協力医療機関による一人ひとりの担当医制で、緊急時や変化に応じた的確な対応がなされている。訪問医とすぐに連絡が取れることは、家族の安心に繋がっている。緊急性のある専門医への受診では、家族と合流して対応されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の状態変化や気づきを、随時、協力医療機関や看護師に相談や連絡をし、適切な受診や治療などを受け入れるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された際は、御家族様等や入院先とこまめに様子確認をし、情報収集を行い病院関係者との関係作りにも努め、早期の退院に向けて、御家族様等の意向に添えるようにケアしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、重度化した場合における対応に係る指針の中に、看取りや不慮の事故等を含めて、御家族様等に説明している。状態変化時は早い段階医師を含め、御家族様等と話し合い、必要に応じて御家族様等と確認書をとったり、今後の方針や支援について密に連絡を取り合い、支援させて頂いている。	協力医療機関との関りは長く、看取りに関する方向性はお互いに一致されている。本人の意向を最優先に、家族の同意と医師の協力を得て看取り支援が行われている。最期まで声掛けを行い、自然な流れで穏やかに寄り添う支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変や事故発生時に速やかに対応できるように緊急事対応マニュアルや研修を実施、実践をし24時間相談できる医師等に処置を受けられる体制である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回、日中、夜間を想定して、水害、火災想定等の訓練を行っている。水害想定時には水平訓練の実施もしている。BCPについての研修を年一回行い、知識を高めている。近隣住民へ年二回、入居者様の避難方法を明記した書類を配布している。	自然災害に応じたBCP(事業継続計画)が作成されており、消防設備研修や防災想定訓練も実施されている。夜間想定訓練は、時間帯を考慮することで、より効果的な訓練とされたい。数年前の停電を教訓に、停電マニュアルが見直されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人一人の個を尊重し、生活史を把握し、人格を損なうことがないように、プライバシーに関する研修について年一回行っていて、自分達の声掛けについて振り返りの場となっている。	職員は、適切な距離を保ちながら利用者の言動が把握できる位置で見守っている。声の大きさや言葉使いなど、一人ひとりに対する適切な関わり方を把握されている。訪問当日には、研修等での振り返りが支援に反映されていることが窺えた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様との日々のコミュニケーションを大切にしながら、御本人様のご希望や思いを表現できる機会を設け、自己決定が難しい方は、御本人様主体で考えて対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人の生活スペースを大切に、(ソファでTVをみる方、居室で好むTVをみたりするなど)御本人様のご意向を尊重しつつ生活リズムを作っていくように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時には、気候に配慮しながらも、御本人様の好まれる服や要望を聞いて用意をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューをスタッフが考え、入居者様の好まれるものを献立に入れ、肉と魚をメインとして、時にはパスタ等を取り入れて、季節ごとイベントで沢山食べられるように工夫している。入居者様とテーブル拭きや食器拭きなどを一緒に行っている。	食事の栄養価はもとより、見た目にも拘り調理されている。職員が考えたメニューをもとに、利用者の希望を取り入れている。「施設の庭でお弁当を食べる会」を企画するなど、趣向を凝らして楽しい食事の提供に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事形態や量に合わせて対応し、栄養バランスを考えている。食事以外の時間に水分補給の時間を設け、脱水にならないように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者様に合わせて口腔ケアを行い、歯科衛生士の出勤時には口腔内の状態等の把握をし、定期的な歯科往診にて対応等のアドバイスを頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄時間を把握して、誘導を行っている。日中は出来るだけトイレでの排泄を促すよう支援している。トイレは各階三か所ずつ、居室からすぐに見つかる場所で困る事が無い様に配慮している。	現在は2人がリハビリパンツで他はおむつをされている。歳を重ねるごとに便秘の利用者が増え、下剤で調整される人もいる。毎日のおやつでは、欠かさずヨーグルトや果物を取り入れている。自尊心に配慮し、静かに声掛けをされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事以外の時間に水分補給の時間を設け、午前のおやつ時に牛乳、昼食時にヨーグルトをお出しして便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴時間を午前と午後に設けていて、1人、週2～3回の入浴支援をしている。入浴日は固定せず、体調や気分に合わせて、季節のゆず湯等も毎年行っていて、入浴方法を工夫している。高齢の方は入浴後水分補給をし、すぐに横になったり、休める時間を作っている。	入浴が好きなのに、何をどうしていいかわからないなどの訴えには、本人の安全を最優先として介護チェアを使用し、不安も払拭されている。お湯は個々に入れ替えて、湯温も調節している。部屋を温めて、ヒートショック対策をされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の状態に合わせて、日中も居室で休まれる時間を設けている。入居者様の睡眠時間を把握し、入床時間を変更し睡眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関する事は医師や看護師の指示の上、確実に入居者様一人一人に合わせた内服介助方法で確実に内服介助をしている。薬の在庫等の把握は薬局が行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の残存機能を生かし、洗濯ものたたみ、食器洗い、拭き、編み物など気分転換になるように支援させて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染対策をしながら、近所の神社に初詣の出掛けたり、天竜川の公園に行く等の外出支援を再開している。また、入居者様に御家族様等同士で散歩へ行く機会も設けている。	桜の花見で地域の小学校や神社に出かけるなど、季節感を大切に外出支援されている。本人の体調等を考慮して、室内での軽い運動とベランダ等での外気浴でバランスをとることもあるが、気分転換を兼ねて散歩に出かけるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族様の能力やご希望により小銭程度のお金を手元に持っている方もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様等との相談・了解のもとで親戚や親しい友人などと電話やりとりが行えるよう、御家族様と入居者様の絆を大切に支援させて頂いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	感染対策として入居者様が過ごしやすいように温度・湿度設定を行い、1時間おきに5分程度の換気をしている。入居者様が過ごすフロアは、日中・夜間に照明調節を行い、落ち着いた共有空間を作っている。日中は、活気あるフロア、夕方からは音を静かに心がけている	大きな一軒家を思わせる建物は、外周リから敷地内の片隅まで手入れが行き届いている。玄関を含めた生活スペースは、明るく清潔で整理整頓がされている。居間では、利用者一人ひとりが自分の居場所を保ちながら口腔体操に集中されていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにて入居者様同士で談話したり、TVやDVDを見たり、体操をしたり、入居者様一人一人に合わせた場所が作れるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室作りの際は、御本人様や御家族様等の要望に応じて、今まで使っていたタンス・テレビ・家族の写真を飾り、居心地のいい空間作りができるように工夫している、表札もつけて自分の部屋という認識ができるようにしている	居室は、安全を考慮したシンプルな設えである。清掃、換気、布団干し、リネン類の交換などは定期的に行い、快適に過ごせるように支援されている。家族は、居室で利用者とゆっくり過ごす日を心待ちにされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全・安心して生活できるように一人一人の入居者様の居室入り口に表札を設置し、自分の部屋ができるようにしている、居室から出てもトイレの場所が分かるように、また人の気配が感じられるようにしている		